

有珠山における取り組み

平成 19 年 6 月 7 日

有珠山噴火の再来に備えた壮警町の取組

三松三朗（三松正夫記念館・昭和新山資料館）

田鍋敏也・土門秀樹（壮警町役場）

The counter measure of volcano disaster prevention of Sobetsu Town, Usu Volcano

Saburo Mimatsu (Mimatsu Masao Memorial Museum)

Toshiya Tanabe, Hideki Domon (Sobetsu Town Office)

1 はじめに

有珠山は、伊達市、虻田町、壮警町にまたがる火山であり、20世紀の90年間に4回の噴火をして地域にその健在振りを伝えた。2000年有珠山噴火では、人の居住域近接場所に火口が生じたにもかかわらず人的な被害はなかった。この背景には、北海道大学の研究機関、有珠火山観測所が存在し、研究成果を地元住民へ解りやすく翻訳、提供して頂いた科学者の姿勢と、昭和新山の生成過程を克明に記し、火山を愛した故三松正夫氏（壮警町名誉町民）とその志を受け継ぎ、火山防災に警鐘をならす三松正夫記念館・昭和新山資料館の存在、並びに過去の噴火体験を活かし、有珠山の特性を知り、情報共有を図る取組があったからと認識する。

壮警町等の四半世紀超にわたる取組と現状を紹介する。

2 1977年噴火以降の啓発事業（ ）は主催者、講師敬称略

1977年8月7日 有珠山噴火
11月5日 文化講演会『有珠山の噴火』講師：横山泉（町教委）
1982年～83年 北海道市民大学講座『郷土の認識～火山の探求』
（道教委・町教委）協力大学 北海道大学 9回
講師：石川俊夫・横山泉・勝井義雄・東三郎・岡田弘・渡辺秀文
1983年～継続 子ども郷土史講座（町教委）年間6講座中
昭和新山学習会 三松三朗 有珠山学習会 岡田弘
1987年3月26日 文化講演会『火山の探求』講師：横山泉（町教委）
1989年8月19日 第44回国体炬火を昭和新山ドムから採火
町内全小中学生による「溶岩熱体感」炬火リレー
1990年4月9日 第44回国体炬火 永久保存記念炬火台設置
1990年～継続 昭和新山・有珠山登山学習会（徒歩渓流会など）
1993年6月10日 壮警町火山減災に関する提言
1995年7月29日 子供自然災害サミット 昭和新山（洞爺JC）
1996年6月12日 昭和新山登山学習会（町教育職員研究会）
1997年2月11日 町職員研修『雲仙普賢岳』講師：島原市 杉本伸一
1998年2月11日 町職員研修『危機管理』講師：三松三朗
3月1日 広報そうべつ 火山防災一口メモ連載開始
3月28日 町防災計画に基づき避難所看板整備
4月15日 「もしもの災害に備えて」発行 町内全戸配布
9月7日 壮警小学校 郷土の火山を知る 講師：三松三朗
1999年3月16日 講演会『有珠山噴火に備えて』講師：三松三朗
3月 壮警町教頭会『噴火を予想した学校防災計画』冊子発表
5月14日 「噴火に備えて」発行 町内全戸配布
9月24日 町づくり講演会 講師：宇井忠英
10月18日～25日 火山砂防フォーラム in フィリピンへ町長他4名参加
11月20日 北海道火山勉強会“有珠山”開催

特別事業「昭和新山生成50周年記念事業（実行委員会）」

1993年 『昭和新山生成日記』三松正夫著復刻改訂版発行
火山学術講演会 講師：勝井義雄・岡田弘
三松正夫記念銅像除幕/記念講演会 講師：勝井義雄
1994年 50周年記念講演会・登山学習会 講師：岡田弘・三松三朗

国際火山ワ・クショッブ実行委設立記念講演会

講師：勝井義雄・伊藤和明・三松三朗
写真集『麦圃生山』発行 町内全戸配布
1995年 昭和新山登山学習会
防災講演会 勝井義雄・宇井忠英・岡田弘・三松三朗
特別記録写真展 防災講演会 廣井脩・伊藤和明
有珠火山ハザードマップ発行 町内全戸配布
10月12日～15日 国際火山ワ・クショッブ
減災文化を構築する「昭和新山アピール」採択
特別事業「有珠山噴火20周年記念事業（壮警町ほか）」
1997年 火山ハンドブック有珠山・昭和新山 発行 町内全戸配布
広報そうべつ特集 3回連載
温故知新 - 有珠山歴史的噴火資料集発行 町内全戸配布
有珠山歴史的災害跡ツアー - 勝井義雄・岡田弘・三松三朗
火山記録映像観賞会（5日連続）
『有珠山噴火記録写真展』（町教委・郷土史料館友の会）
有珠山噴火20周年記念防災講演会
岡田弘・東三郎・伊藤和明・勝井義雄・廣井脩・池谷浩・三松三朗

3 2000年3月31日噴火以降の啓発事業

7月25日 四十三山噴火90周年事業フィールドツアーと講演会
勝井義雄・三松三朗・岡田弘・宇井忠英
8月26日 夏休み地震火山こどもサマースクール(地震学会、火山学会)
9月16日 有珠山噴火体験学習(壮警小学校)
2001年2月20日 町職員研修会 2000年有珠山噴火とまちづくり 勝井義雄
3月31日 まちづくり講演会 勝井義雄・宇井忠英・岡田弘
2002年2月7日 町職員研修会 土砂災害防止法と安全なまちづくり 池谷浩
3月5日 防災マップ研修会 宇井忠英
6月1日 壮警町の2000年有珠山噴火 発行 全戸配布
6月 洞爺湖周辺地域エコミュージアム構想公表
構想に基づき「火山災害遺構整備」現在継続
8月4日 子どもサミット・開発局ヘリ。(町、洞爺JC) 解説:岡田弘・三松三朗
10月26日 エコミュージアムシンポジウム 岡田弘 USGS Thomas Wright
2003年3月 小学生版副読本完成(北海道開発局)
2004年3月 中学生版副読本完成(北海道開発局)
3月～6月 エコミュージアム講座・火山編・岡田弘 宇井忠英、三松三朗
11月28日 エコミュージアム友の会発表
2005年9月 昭和新山生成60周年記念事業

有珠山火山防災協議会の取組 - 発刊物を中心に -

2002年 有珠山火山防災マップ発行 全戸配布
2003年 有珠山地域防災ガイドブック発行 全戸配布
防災ビデオ 有珠山とともに作成 日本語・英語版
防災ビデオ なぜ・ナニ有珠山作成 日本語版

壮警町のHP <http://www.town.sobetsu.hokkaido.jp/>
壮警町の火山防災 <http://www9.plala.or.jp/usu/volcano/>
TEL 0142-66-2121 FAX 0142-66-7001
Email somu@town.sobetsu.hokkaido.jp

有珠火山 エコミュージアムの試み

三松三朗（三松正夫記念館・昭和新山資料館）
田鍋敏也・土門秀樹（壮瞥町役場）

Current progress and future improvements of Ecomuseum Project, Usu Volcano
Saburo Mimatsu (Mimatsu Masao Memorial Museum),
Toshiya Tanabe, Hideki Domon (Sobetsu Town Office)

1 はじめに

有珠山では20世紀のわずか90年間に四回の噴火を体験し、その都度地域の人々は辛酸を舐めてきた。そのような短周期で噴火を繰り返す地域であってさえ、活動期は短く、地域に恵みを与える平穏期は長いという火山の特性から、災害の記憶は短時間で風化した。

1910年噴火では明治新山と洞爺湖温泉を、1943～'45年の活動では麦畑変じて昭和新山を生み出した。それらを観光資源として利用し、火山のテリトリーの土地開発を進め、地域の発展という誤解で自ら火山災害に弱い環境を進化させてしまった。

そして高度成長に浮かれる1977年に179年振りの山頂噴火に遭遇し、人々は噴火という自然現象に自らの無力を思い知らされ、火山の災害面を忘れていたことに反省し、火山との共生の道を模索する機会となった。

2 エコミュージアムの認知

1977年噴火はその後も続き、噴火終了後も有珠新山の成長に伴う地殻変動が続き、地域経済は大打撃を受けた。

その被害の反動から、災害に強いまちづくりの声は押さえ込まれ「復興・復旧」のかけ声で災害の痕跡を全て敏速にかき消し、「カムバック観光客」を急いだ。が、時代の不況化の流れもあって噴火以前の賑わいに戻らず、この地に生活することを考えた時、見せかけだけの安全で次期噴火がどうなるか、備えを！の思いが次第に芽生え始めた。

「観光地で災害、防災を口にするに客が減る」と、タブー視されてきた防災啓発施策・ハザードマップの公表への抵抗も逡巡していった。

30年の安心を信じていた人々を裏切るように、2000年3月31日に有珠山の西山麓、主要国道の傍らで22年振りの噴火を始めた。が、適切な科学者の事前判断と過去の噴火体験を活かした避難行動のお陰で人身事故皆無の成果を挙げ得た。

この中で、子ども郷土史講座や登山学習会、防災まちづくり講演会など、有珠山の平穏期に壮瞥町が積極的に取り組んだ啓発事業の重要性が認識され、火山防災に積極的ではなかった地域の住民からも「災害の遺構を防災教育に、災害の痕跡を観光の目玉に！」という声があがるようになった。

幸いにも北海道が策定した「平成12年有珠山噴火災害復興方

針」の一つの柱として「エコ構想」の積極的推進が決定され、洞爺湖周辺の1市3町2村で構成する「レイクトピア21」推進協議会にエコ構想策定部会（現在は推進部会）が設置され、国、北海道等の強力な支援のもとでプロジェクトが推進されている。

3 エコミュージアムの現状と将来への展開

メインテーマは『「火の山」・「北の大地」の歴史あふれる自然博物館』であり、有珠山周辺は「火山の恵み（遺構）エリア」として火山災害の爪跡を『火山と共生してきた地域の歴史を伝承する語り部』と位置づけ、保存・整備（展示）を進めている。

既整備の火山遺構

壮瞥町 1943～'45年 新山生成で持ち上がった国鉄鉄橋跡、
1977～'82年 地殻変動で倒壊した病院跡、
有珠外輪山自然遊歩道、有珠火山噴出物露頭
虻田町 2000年 西山山麓火口群遊歩道、
金比羅山麓災害遺構群散策路と
町営住宅・公衆浴場・流失橋（砂防ダム内保存）

今後、情報拠点コア施設（仮称）壮瞥町防災・観光情報センター（H18）や誘導・解説サイン整備（H17-18）を予定

ハード的な整備にあわせ、フィールドを活用したソフト的な取組、学習型エコツアーや修学旅行の誘致活動が「エコミュージアム友の会」と民間事業者などの連携により試行されている。

これらの資源を住民、観光客が訪れることにより、地域の災害環境の認識と共生の歴史の伝承が図られ、将来の減災効果とともに観光産業の振興も期待できる。

有珠山にしかない資源を活かし、関係機関の協力を得ながら、住民とともに息の長い地域のプロジェクトとして「エコミュージアム」を育てていきたいと考えている。

エコミュージアム構想（壮瞥町HP）

URL <http://www.town.sobetsu.hokkaido.jp/eco/index.htm>

TEL 0142-66-2121 FAX 0142-66-7001

Email kikaku@town.sobetsu.hokkaido.jp

エコミュージアム友の会

URL <http://www005.upp.so-net.ne.jp/usuvolcano/>

Email ttanabe@js2.so-net.ne.jp